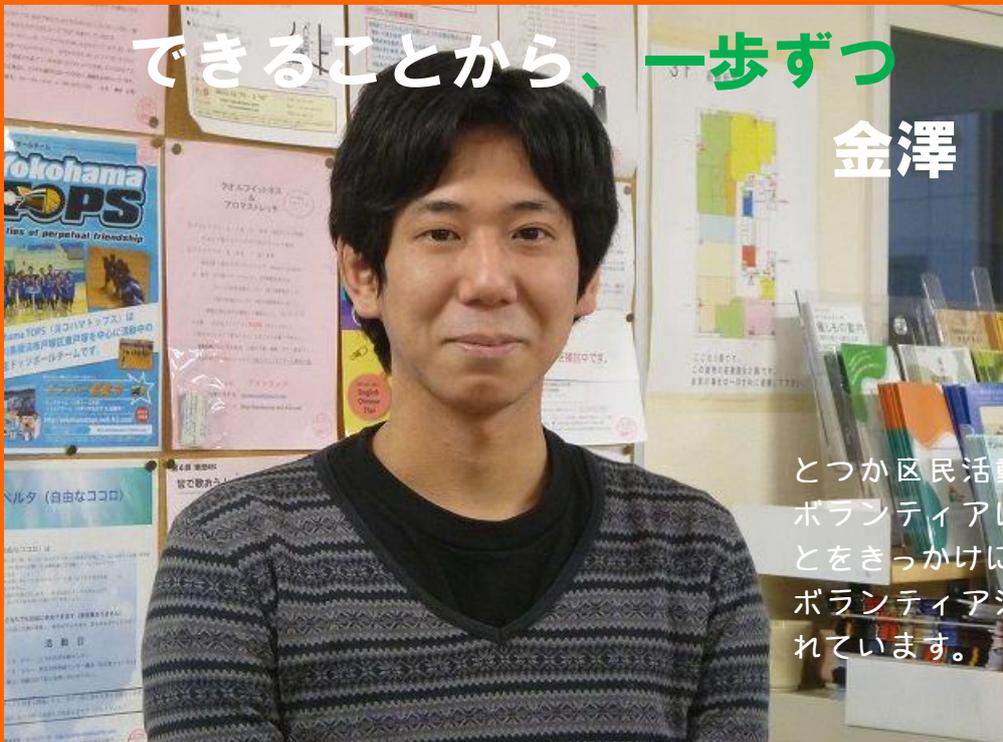


できることから、**一歩ずつ**

金澤 亮さん



とつか区民活動センターのボランティアに登録したことをきっかけに、さまざまなボランティア活動に参加されています。

きっかけは、とつか区民活動センターへの一歩

ボランティアをしたいと思い、はじめに向かったのは「とつか区民活動センター」でした。とにかく何かやりたいという気持ちがあったので、きっかけづくりは、足を運びました。それまで、ボランティアをしたことはなかったので、最初はチラシを見たり、ポスターを見たり、情報収集をしました。

以前、福祉の学校に通っていたこともあり、ボランティアには関心がありましたが、ボランティアには福祉関係だけでなく、さまざまなジャンルのボランティアがあることを知る機会となりました。そのとき、センターのスタッフの方に声をかけられて、センターボランティアに登録をしたときから、私の活動は始まりました。

子どもたちの料理教室

センターボランティア登録後、初のボランティアは子どもたちが対象の、料理教室のサポートでした。製菓の専門学校に通っていたので、料理が初めての子どもたちも簡単に作れるレシピを考え、一緒に作りました。

子どもたちのサポートをすることは初めてで、とても緊張しましたが、すごく楽しく過ごしました。障がいのある子もいましたが、みんなでサポートし合いながら和気あいあいとした雰囲気で作ることができ、みんなの喜ぶ顔が見られました。クッキーやパウンドケーキなどを一緒につくることで、自然に子どもたちとコミュニケーションをとることができました。

私にとっては、知らなかった世界に足を踏み入れた出来事でした。子どもたちがこんなにかわいいということ、教えるということがこんなに楽しいということ。自分の経験にはなかった世界に出会えました。

そして、ボランティアとは無理せず気楽にできるのだと知りました。そして、他のボランティア活動にも挑戦してみたいと思い、さまざまな活動に参加するようになりました。

自分のためでもあり、人のためにもなることを

今、とてもやりがいを感じています。一つの団体だけでなく、いろんなことを経験できるのが、個人のボランティアの魅力で、さまざまな考え方に触れることができます。

ボランティアをしたい！というよりは、気がついたら活動がボランティアだったという方が自然かもしれません。無理なく自分のペースで、自分が好きなものに参加していますが、自分も相手も幸せになれる活動であることが、魅力だと感じています。

人と接することが好きだということも、接客業やボランティアを経験して、わかったことです。

ボランティアでは、洋菓子を作ることが多くあります。もともとモノをつくるということが好きで、工作なども好きでした。

友人の誕生日ケーキをつくって、プレゼントすることもありました。人が好きだということ。そして、洋菓子作りが好きだということ。今のボランティアはどちらも活かして、楽しめることが魅力となっています。



<子どもたちとの料理教室の様子>



<子どもたちとの料理教室の様子>

知らなかった自分との出逢い

もともと福祉や子どもという分野に関心がありましたが、直接活動したことはあまりなかったので、漠然と触れたいと思っていました。わからない分野を知るおもしろさもあり、さまざまな職業に挑戦し、好きだと思えるものを見つけたいという気持ちがありました。

事務職はあまり合わない、と感じたりと、苦手なこととの発見もありました。それも、自分を知ることにつながったので、よかったなと思っています。

「ボランティアで何ができますか？」と聞かれたら、「何もできない。」と思ってしまう人も少なくないと思います。私も、自分に何ができるのか、どのようなところで自分を活かせるのかわかりませんでした。やっていく中で子どもたちとの出逢いがきっかけとなり、知らなかった自分に出逢うことができました。子どもたちと接していることが自分に合っている！と、活動を通して感じられたのです。

また、料理という自分の特技が、活かせる場所がありました。その特技を活かして、

子どもたちを喜ばせることができるというのは、この上ない幸せだと思います。

私はここにくるまで、少し遠回りだったかもしれない。でも、さまざまな職や、ボランティア活動を経験していくうちに、知らなかった自分と出逢うことができました。

「何もできない。」と思っている人も、きっと出来ることがあるのだと思います。

一歩を踏み出してみて、それに出逢えるという環境も、活動の魅力です。

ボランティアを通して、出逢えた「子どもが好きだ」という気持ちを形にしていきたいと思っています。

想いが通じる場所で自分の想いを

震災は、自分にとっても大きな出来事でした。多くの子どもたちも被害に遭ったというお話を聴き、とても心が痛くなりました。私は、被災地に実際に行くことは難しいけれど、人のためにできることをどんどんやっていきたいという気持ちが高まった出来事でした。今までのボランティアをもっと頑張っていこうというきっかけになりました。

私は、どこかの団体に所属している訳ではないので、毎回、ボランティアを募集している団体さんと相談して、活動内容を決めています。さまざまな団体でボランティアの募集があるので、自分の想いと団体の想いが合う場所で活動ができれば、お互い支え合えると思います。

自分ができることを、自分のペースでやっていき、少しでも笑顔になってくれる人が増えたら嬉しいです。ちょっとした時間でも、できることはあると思うので、この想いを伝えられたら良いなと思います。

やりがいは、子どもたちの笑顔を見ること

ボランティアをしていて、何よりも嬉しいのは、子どもたちが喜んでくれたり、笑顔になってくれた瞬間を見られるということです。活動する前は、「喜んでくれるだろうか？」と不安もありますが、子どもたちの笑顔を見た瞬間に喜びと安心感がこみ上げてきます。



<子どもたちとの料理教室の様子>



<子どもたちとの料理教室の様子>

ボランティアをするまでは、子どもたちと接する機会がなかったので、どのような話をすれば良いのか、どのようにコミュニケーションをとれば良いのかわかりませんでした。でも、子どもたちの方から声をかけてくれてコミュニケーションをとることができたことで、今では子どもたちと遊ぶことがほんとうに楽しいと思えるようになりました。どうすれば、子どもたちが笑ってくれるのか、仲良くなれるのかということが分かってきたことが嬉しい。子どもたちがすごく喜んでくれるということが、やりがいになっています。

ボランティアをしていると、多くの子どもたちと接することになりますが、一人ひとりに寄り添った活動を目指したいと思っています。以前は、子どもが苦手だったけれど、今のやりがいは、子どもたちの笑顔を見ること。人は、変われるのだと思います。ボランティアをしたことで、自分の成長も感じています。

無理せず、一步一步

ボランティアをしたいけれど、まだ一步を踏み出せないという人には「簡単なことでも、ボランティアになるのだ。」ということをお伝えしたいと思います。すべてを自分一人でやらなくて良いし、できないことを気にすることもないと感じます。ボランティアをしてみて、自分ができないところは、他の人に補ってもらい、助け合っているのだと学びました。私は、ボランティア活動への一步に慎重になっていましたが、やってみたらすごく楽しい。ボランティアをしている本人が楽しんでやることが一番大切なことなのではないかと思います。

ささいなことでも、役に立っているということは、とても嬉しいし、やりがいがあります。特別なことをしているということではないので、こんなことをボランティアと呼んでもよいのかな？と思ったこともありました。でも、ちょっとしたことで、それはボランティアで、できることからやっていくことが次につながっていくと思います。一步一步、自分も成長できる環境です。

見つけた夢に向かって

今、私には夢があります。ボランティアの活動を通して、保育士になるという夢が見つかりました。

保育士は、女性というイメージが強いかもしれませんが、けれども、自分の個性を活かしていけたら嬉しいと思います。一人ひとりの子どもと向き合っていきたい。みんな、苦手なこととか、できないこともあると思います。だから人と人が、助け合っていけたらと思います。子どもたちの、できるところも、できないところも、受け止めていけたら良いと思います。「こうすべき！」ではなく、さまざまな意見を取り入れられる保育士さんになりたいと思います。子どもたちが、生きやすい環境、子どもたちのほっとできる居場所をつくっていきたいと思います。

子どもたちと、子どもたちのいいところを引き出すお手伝いをしながら、共に育てるような、そんな保育士を目指したいと思っています。

編集後記 いろいろな職業を経験した後、たどり着いたのは「ボランティアがしたい！」だった金澤さん。そしてそのボランティアを通じて、新しい夢も見つけ出したそうです。子供たちの話をされている時の金澤さんはとても楽しそうで、素敵な保育士さんになられる事だろうと思います。